






病害虫発生予察情報予報第 9 号 (12 月の予報)

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12 月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)	
		平年比	前年比			
タマネギ	べと病	やや多	やや多	260~263		
	ポトリチス葉枯症	並	並	264		
	1. べと病 暗渠・明渠や高畝による排水対策を行うとともに丁寧に耕起し、べと病が発生しにくい環境づくりを行う。本圃定植前(定植5日前~前日)にジャストフィットフロアブルを、定植14日後頃にザンプロDMフロアブルを散布する(令和元年11月18日付け病害虫対策資料第12号参照)。					
	2. 乾腐病 前年に発生した圃場など、発生の恐れがある圃場に植え付ける場合は、地床育苗の苗は、定植直前にベンレート水和剤またはトリフミン水和剤を根部浸漬し、セル育苗の苗は、定植前日に同薬剤をトレイに灌注する(令和元年11月18日付け病害虫対策資料第12号参照)。					
3. 腐敗病 べと病と同様に、排水対策を行い、発生しにくい環境づくりを行う。発病株は速やかに抜き取り、圃場外へ持ち出し処分する(令和元年11月18日付け病害虫対策資料第12号参照)。						
イチゴ(本圃)	ハダニ類	多	多	209~210	 ハダニ類	
	うどんこ病	やや少	並	199~201		
	灰色かび病	並	やや少	202~203		
	アブラムシ類	多	並	214~215		
	1. ハダニ類 多発生した圃場が認められる。発生初期からの防除を徹底する。天敵を利用する場合は、ハダニ類の密度が高いままでは効果が上がりにくいいため、有効薬剤によりハダニ類の密度を0頭レベルに抑えた後に、天敵(カブリダニ類)を放飼する(令和元年11月28日付け病害虫発生予察注意報第3号参照)。					
2. アザミウマ類 圃場によっては発生が散見される。発生初期の防除を徹底する。						
3. 灰色かび病 こまめな換気により、適正な湿度管理に努める。また、「いちごさん」では受粉後の花卉が外れにくいいため、果実での被害が発生しやすい。プロア一等を用い定期的に花卉除去をする。						
4. 薬剤散布におけるミツバチへの危害防止 薬剤散布を行う際はミツバチの巣箱を圃場外に持ち出し、ミツバチがハウス内に入らないようにする。(導入可能日数は防除のてびき P531~P535 参照)。						

作物名	病害虫名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
		平年比	前年比		
キュウリ	べと病	多	多	179~180	 キュウリ 黄化えそ病
	うどんこ病	並	やや少	177~179	
	褐斑病	やや少	やや多	182~183	
	アザミウマ類	やや少	並	191~192	
	コナジラミ類	多	多	190~191	
1. ミナミキイロアザミウマ、黄化えそ病、タバココナジラミ、退緑黄化病 コナジラミ類の発生が多く、退緑黄化病が発生している圃場がある。退緑黄化病や黄化えそ病などのウイルス病を次作に持ち越さないため、キルパー等を用いて株を完全に枯死させた後に株を抜き取り、ガス抜きを十分に行ってから、次作の定植準備をする。					
トマト	葉かび病	やや多	やや多	226~227	 コナジラミ類
	灰色かび病	やや多	やや多	221~222	
	コナジラミ類	やや多	やや多	152~154 229~231	
1. 葉かび病、灰色かび病 発病部位の早期除去、予防的な薬剤散布、適切な湿度管理を組み合わせで防除する。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、植物体表面での結露を防ぐため、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。 2. タバココナジラミ：黄化葉巻病 ウイルス病の罹病株を認めた場合は、早急に除去処分するとともに、タバココナジラミに対する薬剤防除を徹底する。					
ナス	すすかび病	並	並	235~236	 灰色かび病
	灰色かび病	多	やや多	234~235	
	菌核病	多	多	238	
	アザミウマ類	少	やや少	155~160 242~243	
	コナジラミ類	並	並	152~154 243~244	
1. 灰色かび病・菌核病 一部の圃場で発生が認められる。果実に残った花弁や発病部位は早めに除去し、過湿にならないよう定期的に換気を行うとともに初期防除を徹底する。特に、「PC 筑陽」は花弁が残りやすいので、適宜取り除き処分する。					

作物名	病虫害名 ^{注1)}	12月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
キウ	白さび病	並	やや多	383~384	 ハダニ類
	アザミウマ類	並	並	388~389	
	アブラムシ類	やや多	やや多	390~391	
	ハダニ類	多	やや少	389~390	
	ハモグリバエ類	並	並	392~393	
	チョウ目害虫	並	並	391~392 163~165	
<p>1. 白さび病 一部圃場で発生が確認される。ハウスを閉めきる冬期は、施設内の湿度が高くなり、本病が発生しやすい条件となるため、発病前から薬剤散布や換気等の防除対策を徹底する。</p> <p>2. ハダニ類 圃場によっては発生が散見される。多発すると防除が困難であるため、低密度時からの防除を徹底する。</p>					

注1) 病虫害名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病虫害について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病虫害防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、（－）：少発生、（－～±）：やや少発生、（±）：並発生、（±～＋）：やや多発生、（＋）：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～3 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
5 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

12 月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 12 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（令和元年 11 月 25 日）を基に、「気温：平年より高い」、「降水量：平年並」と判断しています。

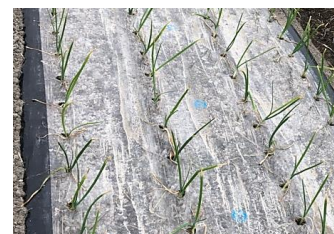
気象予報による要素別確率(%) 及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 12 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	30 (7.6℃)	50	高
降水量	30	30 (48 mm)	40	並

Ⅲ. 12月の予報

タマネギ

定期調査 20 育苗圃場
調査日：11月22日



定期調査圃場の様子

1. べと病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

（12月に発病することはまれであるが、苗床及び本圃で感染するリスクがある）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

発生株率：0%（平年0%、前年0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 圃場の菌密度

近年の発生は多いため、圃場の菌密度は高いとみられる。（±～+）

(3) 12月の気象条件

気温が高く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

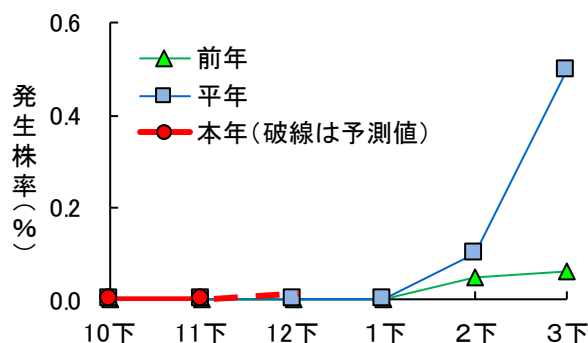


図1 タマネギべと病一次感染株の発生推移

イチゴ（本圃）

定期調査 10 圃場、防除員 6 圃場
調査日：11月19～22日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：23.3%（平年6.5%、前年4.0%）

平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する。

(2) その他については、特記事項を参照。

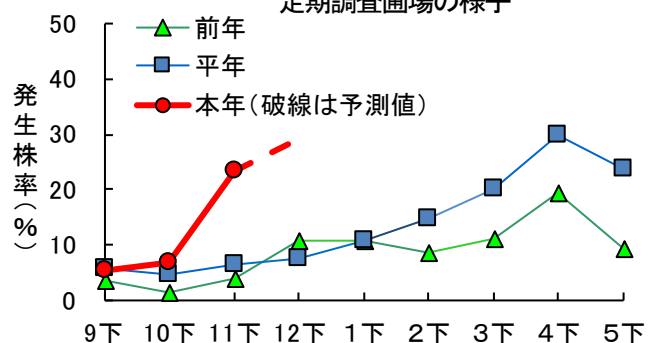


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年9.0%、前年1.6%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

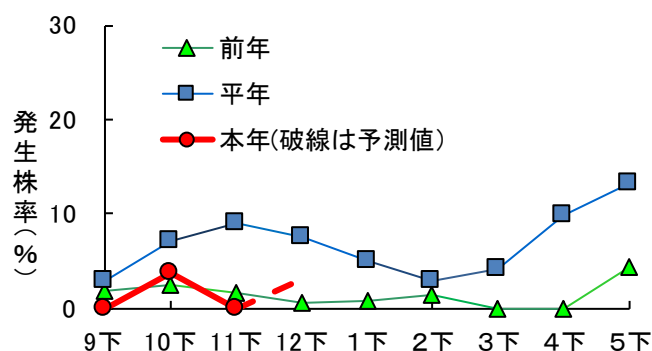


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

- (2) 12月の気象予報
 気温が平年より高く、やや多発生の条件〈±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 約10〜14日間隔の薬剤防除を徹底する。「さがほのか」では、薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる。

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：2.0%（平年0.4%、前年0.9%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤防除の際は、ミツバチへ影響の小さい薬剤を選定する（県病害虫防除のてびき P531〜535）。

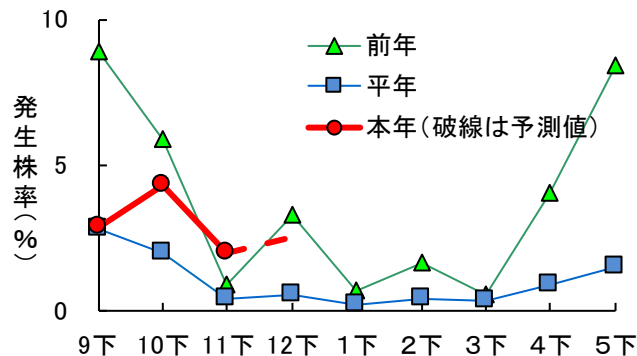


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

キュウリ（抑制）

定期調査5圃場、防除員4圃場
 調査日：11月19〜22日



1. ベと病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：35.0%（平年18.1%、前年1.0%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

(2) 12月の気象予報

気温が平年より高く、やや多発生の条件〈±〜+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 抑制栽培で発生した圃場では、次作で早期から発生する可能性があるため、残渣を圃場外で処分するとともに、発生初期の防除を徹底する。

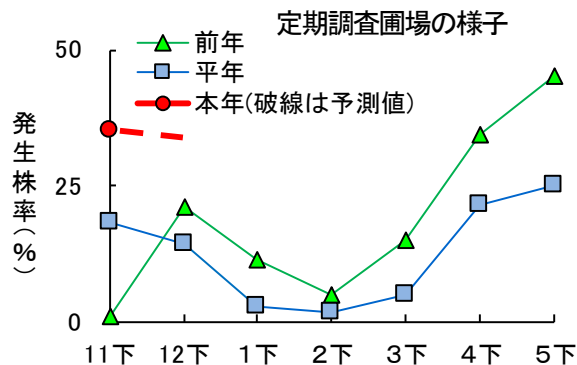


図1 キュウリベと病の発生推移

2. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年6.0%、前年3.0%）

平年比：やや少〈〜±〉 前年比：並〈±〉

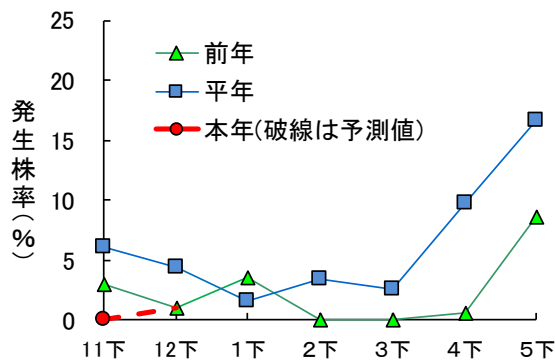


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：19.4%（平年6.1%、前年8.0%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

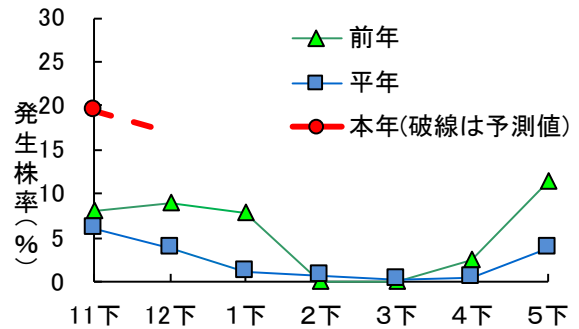
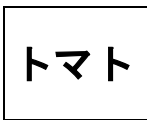


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移



定期調査：6圃場、防除員4圃場
調査日：11月19~22日



定期調査圃場の様子

1. 葉かび病

[\[概要に戻る\]](#)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0.5%（平年1.0%、前年0.4%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 12月の気象予報

気温が平年より高く、やや多発生の条件<±~+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照

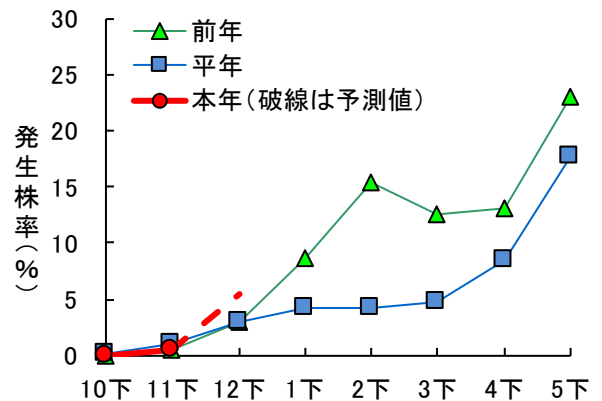


図1 トマト葉かび病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.2%、前年0%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 12月の気象予報

気温が平年より高く、やや多発生の条件<±~+>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項参照

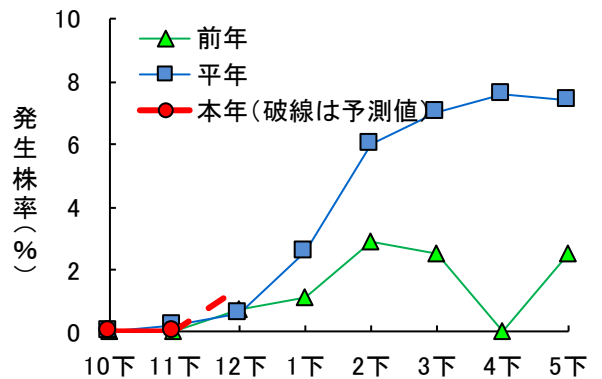


図1 トマト灰色かび病の発生推移

3. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：8.5%（平年5.2%、前年4.3%）
平年比：やや多（±～+） 前年比：やや多（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

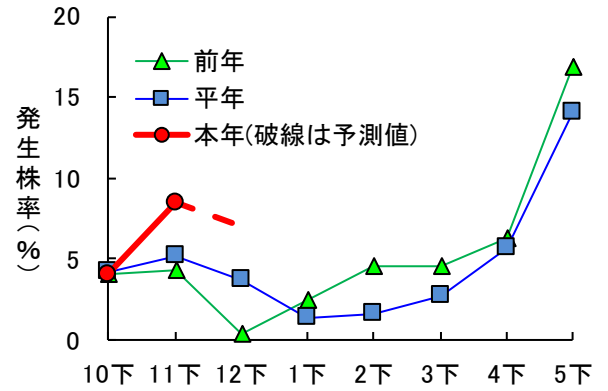


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

ナス（促成）

定期調査7圃場、防除員4圃場
調査日：11月19～22日



定期調査圃場の様子

1. すすかび病

【概要に戻る】

- 1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0.3%、前年0%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）
 - (2) 12月の気象予報
気温が平年より高く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 初発生を確認後、本病の発生を低く抑えるために、直ちにダコニール1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施する。

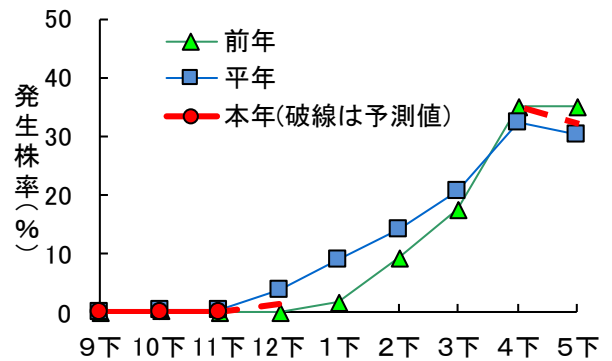


図1 ナスすすかび病の発生推移

2. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：1.0%（平年0.0%、前年0.2%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
 - (2) 12月の気象予報
気温が平年より高く、やや多発生の条件（±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 特記事項を参照。

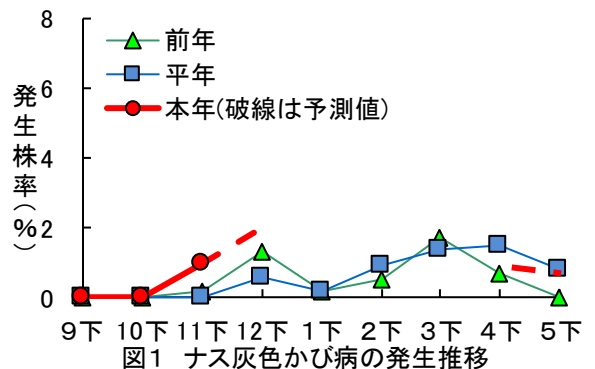


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.4%（平年0.1%、前年0.2%）

平年比：多<+> 前年比：多<+>

(2) 12月の気象予報

降水量が平年並で、並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。

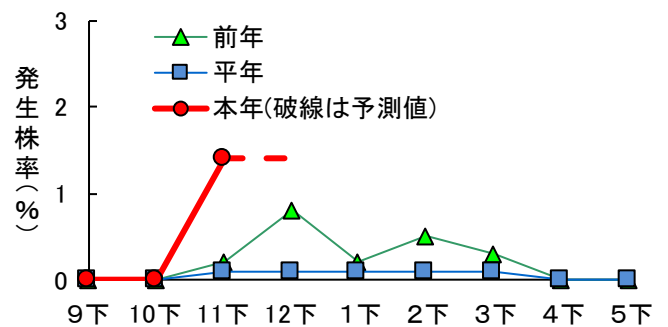


図1 ナス菌核病の発生推移

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：5.0%（平年24.6%、前年16.8%）

平年比：少<-> 前年比：やや少<-~±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。

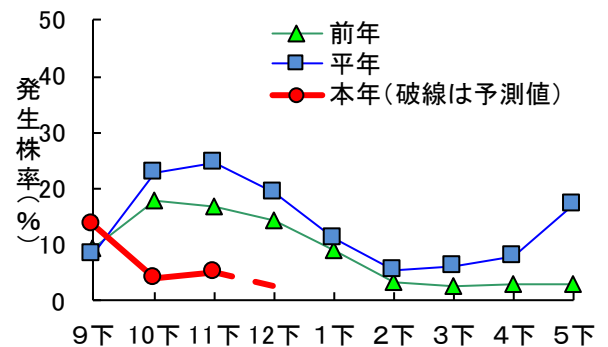


図1 アザミウマ類のナスでの発生推移

5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：31.8%（平年33.4%、前年25.9%）

平年比：並<±> 前年比：並<±>

3) 防除上注意すべき事項

(1) アザミウマ類の項と同じ。

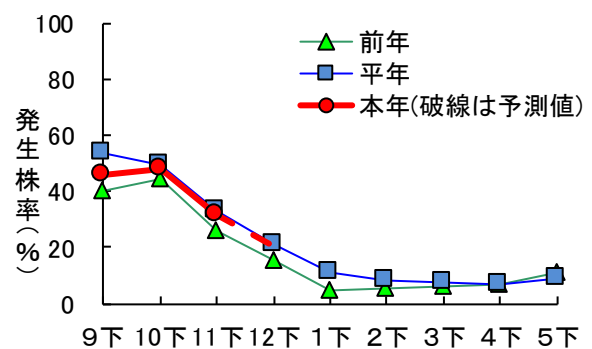


図1 コナジラミ類のナスでの発生推移

キク

定期調査：8 圃場

調査日：11月19~21日

1. 白さび病

[【概要に戻る】](#)

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）



定期調査圃場の様子

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 0.8% (平年 1.9%、前年 0.5%)

平年比: 並<±> 前年比: 並<±>

(2) 12月の気象予報

気温が高くやや多発生の条件<±~+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。
- (2) 発病葉は除去して適切に処分し、薬剤散布時には葉裏や下位葉にも薬液がかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- (3) その他は特記事項参照。

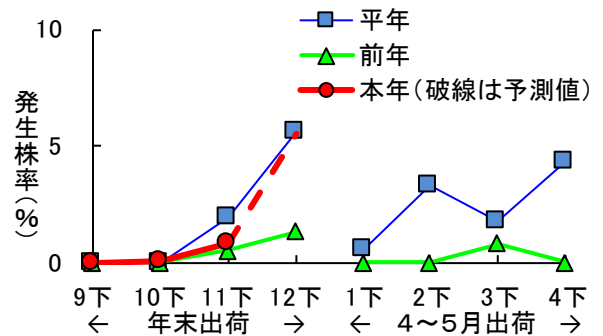


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類 (クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、

ミカンキイロアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量: 平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 3.8% (平年 3.8%、前年 3.8%)

平年比: 並<±> 前年比: 並<±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は葉裏や生長点付近など薬液のかかりにくい部位に生息しているので、薬剤散布時にはそれらの部位にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- (2) ミカンキイロアザミウマが媒介するキクえそ病 (TSW)・茎えそ病 (CSNV) の発病株は早急に抜き取り、圃場外へ持ち出し適切に処分する。
- (3) その他は特記事項参照。

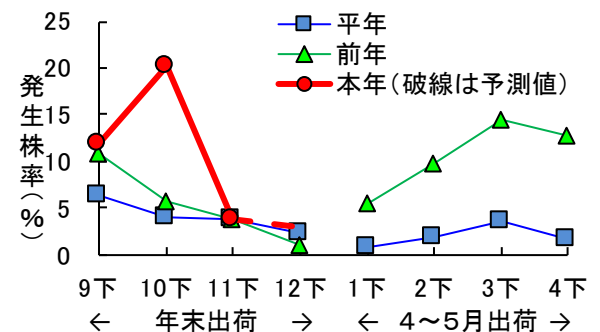


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

3. アブラムシ類

1) 予報の内容

発生量: 平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1 参照)

発生株率 3.8% (平年 1.6%、前年 0%)

平年比: やや多<±~+> 前年比: やや多<±~+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤がむらなくかかるよう、十分量を丁寧に散布する。

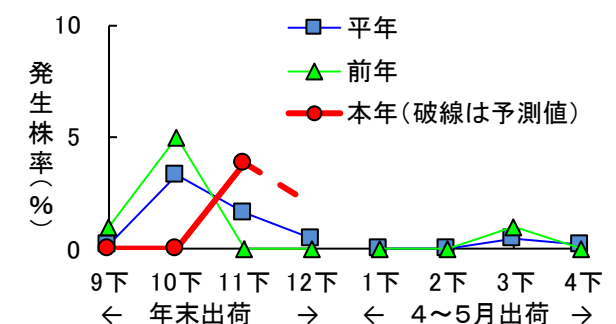


図1 アブラムシ類のキクでの発生推移

4. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査

発生株率 12.0%（平年 5.0%、前年 2.8%）

平年比：多〈+〉 前年比：多〈+〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 本虫は葉裏や下位葉など薬液のかかりにくいところに寄生しているため、薬剤散布時にはそれらの部位にもかかるよう、十分量を丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

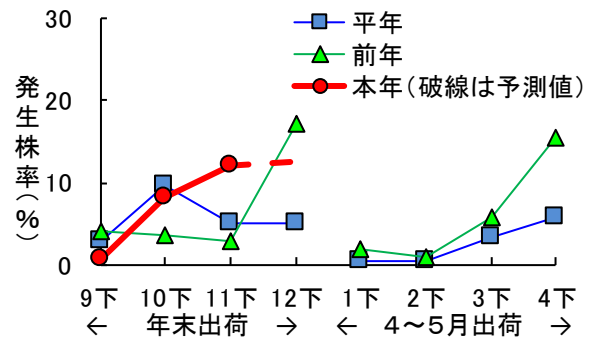


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
Mail nougyougijutsu@pref.saga.lg.jp